



いたびつ 板櫃 <校訓> 真理の探究 自主躍進

令和6年5月28日(火)発行
校長 栗原博巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～
<目指す生徒像>
①「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

3年 社会見学(海の中道→太宰府天満宮)



5月24日(金)3年生は社会見学で福岡市、太宰府市を訪れました。天気もよく(羽仁先生が参加するときはどんな行事も晴れになります!)、楽しめたのではないのでしょうか。

9時ごろ、板櫃中学校を出発。北九州都市高速から九州自動車道、福岡都市高速へ。新しくなったアイランドシティ IC でバスは降り、10時過ぎに海の中道マリンワールド到着。グループ毎に見学開始。一目散でお土産を買うグループ、いろいろな魚を見るグループ、早めにイルカのプールで場所取りをするグループと様々でした。

11時からアシカ、イルカショー開演。水槽の近くで見ていたグループはずぶ濡れになったのではないのでしょうか。観客参加型のショーを終え、11時30分昼食。芝生広場でゆっくり過ごしました。

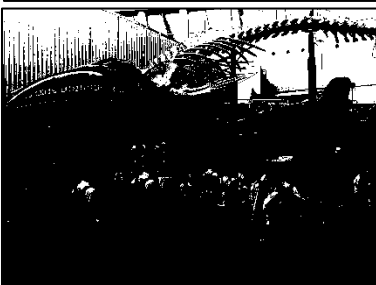
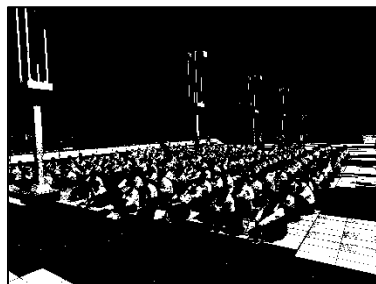
ここで、トラブル発生。午前中に都市高速水城インターで発生した事故による渋滞が昼になっても解消されないため、九州国立博物館をキャンセルしました。バスは、直接太宰府天満宮へ向かいました。太宰府天満宮の本殿は改修中です。今しか見ることのできない仮殿はどうでしたか。お参りを済ませた後は、グループで自由行動です。アイスを食べたり、梅ヶ枝餅を買ったりと楽しく過ごしていました。14時50分バス集合。遅刻者もなく、一路学校へと向かいました。

朝の出発式でも言いましたが、3年生ですべての中学校が社会見学に行くわけではありません。3年生修学旅行を成功させ、今、一生懸命頑張っているからこそできたことです。これからの中学校での行事は、一つ一つが「義務教育最後の行事」になります。みんなでたくさん思い出を作ってください。

【太宰府天満宮 仮殿(かりでん)について】

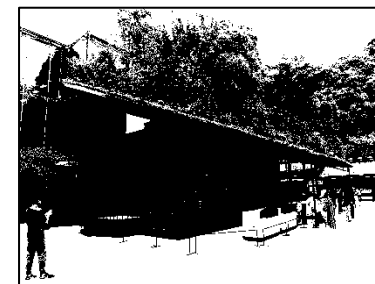
太宰府天満宮では、御祭神 菅原道真公(天神さま)に縁の深い25という数に因み、25年毎に式年大祭を執り行い、御神威の甦りと天神信仰のさらなる発揚を繰り返してきました。

令和9年(2027)に、道真公が薨去(こうきょ)なされてから1125年という大きな節目を迎えます。この節目となる式年大祭の前に、令和5年5月より約3年をかけ、124年ぶりに重要文化財「御本殿」の大改修を行います。約3年間に要する大改修にあたり、改修期間は御本殿前に「仮殿」を建設しています。3年間



のみの仮殿だからこそ、天神さまにもご参拝の方々にも喜んでいただける場所にとの思いで、仮殿のデザイン・設計は、国内外で活躍する建築家であり、大阪・関西万博の会場デザインプロデューサーも務める藤本壮介氏率いる藤本壮介建築設計事務所に依頼したそうです。

道真公を慕う梅の木が一夜のうちに大宰府まで飛んできた梅伝説から着想を得て、鎮守の杜の豊かな自然が御本殿前に飛翔し、仮殿としての佇まいをつくり上げることがコンセプトとなっています。周囲の景観とも調和した、伝統を引き継ぎながら未来へと繋がる仮殿デザインです。



きれいだね～今の自分を振り返ってみよう～

板櫃中のみなさんは「きれいだね」という言葉を聞いて、何を思い起こしますか。今の時期であるならば、初夏の訪れを感じさせる花々(学校では水仙)が咲いていますし、「藤棚の藤」と答える人もいるかも知れません。



確かに、水仙に限らず、藤の花、パンジーだって、花は何でもきれいです。そして、花に限らず、若葉もきれいですし、夕焼けや朝焼けの空、満天の星々、自然の雄大な景色、遠くに見える山々、海、川、湖…など、自然のありとあらゆるものは、きれいなその姿を私たちに見せてくれます。そして、その美しさは、私たちの心を和ませます。穏やかにします。時に感動を与え、見とれてしまうことさえあります。自然のあたり前と思われるその姿が、人間の心にとてもよい影響を与えているわけです。つまり、きれいなもの、美しいものは人の心を豊かにします。

ところで、きれいなものは自然だけでしょうか。人工物であっても、その美しさが見られることがあります。それは人工物が自然物とそっくりだったり、またはそれを作った人、設計した人たちの思いが込められているのかも知れません。

また、きれいには、「心がきれい」というような使い方もします。純粹で、なんだか雰囲気輝いて見える人を、「あの人は心がきれいだ」という言い方をします。親切な人を「心優しい人だ」と言いますが、心優しい人のことも、「心のきれいな人」と呼ぶこともあります。つまり、言葉と心が同じであって、話す言葉そのものが、その人の心の状態を示している人を、そう呼んでいるのです。

そんな「心のきれいな人」の姿も、私たちに感銘を与えます。昨今、表と裏のはっきりしている人の多い中で、「心がきれいな人」は、本当に貴重な存在です。誰もが、「できれば、自分もそうありたい」と願う、理想の姿でもありますね。

きれいな姿の自然、きれいな姿の人工物、きれいな心、これらに共通していることは、いずれも着飾っていない、ということです。決して背伸びをせず、といて、悪びれることもせず、純粹に、素直に、そのものの姿を自然に見せているように感じられます。つまり、自然そのものの姿が美しく、形そのものの姿が美しく、人間そのものの姿が美しい、というわけです。

人間に限って言うならば、「本来の素直な心」、「本来の優しい心」、「本来の愛する心」をそのまま表している人が「心がきれいな人」ということでしょうか。

花の姿や、自然の美しさを見るときに、自分自身を思い起こしてみてください。自分も、本来備わっている美しさが出ているだろうか、素直な心になっているだろうか、打算的で、計算ずくの生活になっていないだろうか、人を傷つける言葉を言っていないだろうか、人を嫌な気持ちにしていないだろうか、そんなことを思い起こしてみるのも、今、この時期ではないかと思うのです。